

○学校の休校期間・再開について その他の動き対応など

3月2日（月）～19日（金）まで

2月27日の首相会見を受ける形で県より連絡を受け、28日の職員朝礼で翌日から休校になると言われる。

3月3日、全児童生徒に電話で状況確認をするように（健康状態、家庭の状況）

本校の電話回線は3回線しか・・・

3月11日より一時預かり開始 保護者の自家送迎 弁当持参

1週間に1回程度電話で状況を聞き取り

配布物など届けることを目的に家庭訪問 マスク着用、玄関先で、短時間で済ませる

卒業式は各学部ごとに予定していた日に実施

最小限の出席者で 卒業生、保護者、学部教員、管理職のみ

来賓なし

4月7日緊急事態宣言 滋賀は24人

4月8日（水）学校再開 入学式

式は入学生、保護者、各クラス担任1名、管理職

在校生は各ホームルームで過ごす

4月13日（月）より再び休校（この時は5月6日までと言われていたが、4月27日に5月いっぱいまで休校になる）

一時預かり 2時まで SB可能 できる限り保護者送迎をお願い 弁当持参

SBが動いたことで利用者増える 平均20数名（小学部児童数78人）

4月22日～24日の家庭訪問は予定通り マスク着用で玄関先で10分程度

5月11日 分散して登校日を設けるようにと県から

週に1回登校日 水曜校時（2時下校）弁当持参

6月から学校再開

第1週は分散登校のため週2日 給食あり

第2週より本格的に学校再開

○休校中の学校の対応など

一週間に1回、電話で状況など聞き取り。

やむをえない場合には学校での一時預かり。

福祉サービスの事業所は休校を受けて長期休業中の様に一日対応してくれたところが多かったが、感染対策のため利用者を減らすのを理由に、就労されていない保護者がいる家庭は利用を断られていた。

医療的ケアの必要な重症児に関して、この校区のケア児は特定非営利活動法人 道 多機能型重症児者ディサービス「ふぁみりい」がその生活を支えてくれている。日頃より連携している。

ケアが必要な児童の中でも、一人親家庭や、働いておられる（働かなくてはならない）家庭などがあるため、一日対応。しかし、スタッフの不足などから、学校に協力要請があり、担任を中心に交代で「ふぁみりい」に行く。

私たちが、菌を運ぶようなことになってはいけなと、着替えや手洗い、健康管理にはかなり気を使った。呼吸器を使用していて、祖父母や家庭で協力してみているケースについては、感染を心配して家庭で過ごされることが多かった。（電話での聞き取りと、家庭訪問のみ）

医療的ケアは必要ではないが、運動障害が重く、保護者が家にいる場合、行くところがなく、家庭で見えていくしかない。しかし、毎日、いつまで続くか分からない中、保護者の負担は大きく、一時預かりを希望されるケースが多かった。

クラスとしては、「ふぁみりい」に行くことで児童の状況を把握することができるのは良かったが、利用していない、利用できていない児童、また、一時預かりも利用していない児童のことが気がかりで休校期間が伸びた時点で、学校のことを忘れないように、家庭でも何か楽しめることを・・・とお楽しみ DVD を作成し配布。朝の会や、前年度の学習で子どもたちが好きだった手遊びや歌、ダンスなどを収録。

○休校中の児童の様子

私の担任する重度重複クラスの児童のほとんどは放課後デイでお世話になっている「ふぁみりい」が1日受けてくださった。

U君の場合（4年）

気管切開していて、常時酸素投与が必要。だが、手足の動きが活発で目を離すと気管カニューレや、注入チューブを抜いてしまったりする。母子家庭で母は仕事があるため、日中ふぁみりいが預かってくださったことで何とか生活できた。が、どうしても手のかかる子なので教員が協力に行った際は必ず対応するようにしていた。連休中、「ふぁみりい」もお休みされたところ、母も大変で殆ど車いすに座らせて過ごしたところ、睡眠のリズムが崩れ、連休明けには落ち着きがなく、じたばたと動き回り、手がカニューレやチューブにばかり行ってしまい大変な状況に。しっかりつき合い、日中の活動を保障していく中で徐々に落ち着きを取り戻すことができた。学校再開後、「ふぁみりい」スタッフから「学校が始まると、より落ち着くし、表情もよくなった」と言っていた。

R君の場合（4年）

注入とペーストの経口摂取を併用。吸引も最近必要になった。父が飲食店勤務のため、コロナ関連でお休みが増えたが、収入が減ったため、母がアルバイトに出ることになる。2歳3歳の妹がいて、子育ても大変な状況での休校。「ふぁみりい」が対応してくださったが、密を避けるためとスタッフ不足のため、放課後デイの利用していた曜日だけの受け入れとなった。R君は木曜が利用できず、学校の一時預かりを希望し、利用して1週間を過ごすことができた。また、ペースト食に関して、食事介助の難しい児童であったが、教員が行くことで関係性や、研修等で得た技術？でしっかり摂取することができた。体重の維持。

・・・協力要請を受けて、毎日行くぐらいなら学校を開けたらいいのに・・・と思ってしまう。しかし、学校は保護送迎が絶対、「ふぁみりい」は送迎も可能なので、両方あればそちらを選ぶよね・・・

Aさんの場合（5年）

呼吸器、経管栄養、吸引、導尿など多くの医療的ケアが必要で思い障害のあるお子さん。感染症には気を使っておられて、休校中は家庭で過ごす。訪問看護も回数を減らし、通院も必要最小限に。母だけが行って済ませるなど。「ふぁみりい」の利用も見合わせていた。父、祖父母も協力的な家庭。6月の学校再開後も、主治医と相談し、2週間程度は地域の状況などみるために家庭で過ごす。第3週から週1日の登校から始めている。登校した日は心地よい疲れで、よく眠る。

Nさんの場合（3年）

医療的ケアはないが、障害の重いお子さん。父、母共働き。母は比較的小休みを取りやすかったりしたが、休校最初の一週間家庭で過ごした時点で、生活リズムが崩れてくる。日中刺激が少ないせいか夜眠らなかったり、何度も起きてしまう。母もずっと付き合っていると精神衛生上良くないと感じたため、学校の一時預かりを希望し、登校。毎日通うところがあり、日中の活動が保障されたことで生活リズムも戻る。

M君の場合（6年）

注入、吸引が必要。4歳の弟が同じく重度の障害がある。兄弟で障害があることもあり、休校中は家庭で過ごす。母は、パートを始めたばかりだが、父、父方の祖父母、母方の祖父母がとても協力的で、何かあると集まって協力してくれている。しかし、家庭で過ごした期間が長かったせいか、学校再開時、身体を起こすことを嫌がったり、昼間にうとうと眠ってしまったり、めそめそと泣くことが増えた。毎日自立活動や、学習に取り組む中で徐々に改善しつつある。

新1年生Y君の場合

入学式に参加した後、すぐに休校になってしまう。医療的ケアが必要でないが障害が重いので、利用できるサービスが少なく、家庭で過ごすことになる。DVDを毎日見て楽しんだとのこと。朝の会の日めくりが気に入り、届けた物だけでは足りずに母が手作りして一日に何枚もめくって楽しんだ。（学校再開時、1年生だが朝の会を楽しみに、すぐに学校になじむことができた）

○再開以後の学校の様子について

最初の1週間は分散登校のため、2日のみの登校。2時までで給食あり。

第2週から本格的に学校再開。スクールバス1台増車（8月まで。しかも普通の観光バスのため、高等部の落ちついて乗車できる選抜メンバーが利用。そのためコース変更など細々とした仕事が増えた）

給食も再開したが、調理の工程を減らす、配膳の数を減らすために1品減らす。（どんぶりとスープ、麺と野菜のおかずなど）給食介助の必要なクラスには使い捨て手袋が常備された。

アルコールスプレー、ペーパータオルも配布された。（ペーパータオル、手袋は今まで要望しても買ってもらえなかったのに）

児童が下校したら、手に触れるところを中心に次亜塩素ナトリウムで消毒。

授業でハイタッチ、手をつなぐなどできるだけ避けるようにと言われるが・・・無理

顔や口元に触れる手遊びは控えるように・・・介助時など一人介助し、次の子どもに触れるときは手洗いもしくはアルコール消毒をなど細々と気をつける点が・・・

重度重複クラスでもマンツーマン体制ではないのでこのルールを守るのは大変。

重度重複クラスは欠席も多いだろうと予想されて、担任数も厳しいものになっている。5人の子どもに担任3人。集団保障のためにも、教師の協力体制を作らためにも2クラスをが合同で運営しているので最大で10人の子どもに6人の教師。プラス介助員。さらに看護師が一つの教室にいるため密は避けられない。6月以降、子どもたちの出席率がよく（通院を減らしている？休校により学校の意義が再確認された？）毎日7～8人の登校。

教室への人の出入りを制限し、指導担当の交代は最小限に。担任以外は一日通して入ることが可能な介助員。

（実際、6人の担任のうち1名は主事、2名が今年度初めて重度重複クラスの担任になった人で、昨年からの3人が中心に進めている状況。安全確保が精いっぱい・・・）

換気をこまめにする。エアコンをつけても窓を開ける。体温調節が難しい児童にはこまめな検温や健康観察でアイスノンを利用したり衣服を調節したりいつも以上に気を配る必要がある。

学部集会は中止

運動会中止

1学期の校外学習、宿泊学習は中止 2学期以降の行事については流行状況や国や県からの通知により検討
調理活動は中止

プール中止 中止の嵐・・・

会議についても回数を減らしたり、できるだけ人数を絞った形で出来る方法を考えたり、校内掲示板を活用するなどの工夫が求められる。

夏休みについて

1学期の終了は8月7日（金）

7月20日（月）～8月7日（金）は半日校時 11：40下校 給食なし

2学期開始は8月24日（月）

8月24日～8月31日は半日校時 11：40下校 給食なし

*個人的には・・・学校では子どもたちと一緒に楽しいことがしたい・・・ただそれだけなのですが
制約が多すぎるのはストレス・・・気をつけながら楽しめる工夫が求められる
感染には気をつける必要があることは十分理解した上で、一定の配慮をした上で、十分な人員配置がされた
なら、学校って案外安全な場所なのでは？

知的クラスの児童にも言えるが、障害の重い子たちにとって、毎日通うところ、何か楽しいことがある場所
というのは、健康を維持するのに重要な事なのでは？生活リズムが整い、身体を動かす機会が保障されると
いう当たり前のことの大切さ。

この間、知的クラスでも学校再開後の児童の体力の低下はよく話題にされている。また、休校中に3～
7キロ体重が増えたケースが多く報告されている。

学校給食の意義についても再度考えたいところだが・・・1品減らされて、半日の登校が増えること
について、もやもやする・・・

また、4月からの一時預かりで知的の新1年生の希望が多かった。心配していた新1年生が一時預かり
を利用したことで、最初にマンツーマンでじっくり付き合うことができ、学校生活にゆっくりなじむ
ことができたことで6月以降、とても落ち着いて過ごせている。逆にいえば、それだけの人員がついて
ゆったり過ごせれば・・・毎年年度始めは事故や怪我が多く、ピリピリとした空気が漂う。

一定の配慮と（環境面を整える）、十分な人員配置をして学校を継続させることは、健康面でも精神面でも重
要などでは？

世間では学習の遅れが問題にされていますが、根拠はないけどそんなに遅れてないよ・・・という感覚。

学べ、学べ！というよりは安心・安全という視点で

重症児が健康の維持、命を守るという視点で学校の役割を再確認させてくれるのでは？

虐待、貧困、広い視点からも考える必要がある？